

大阪大学核物理研究センター研究計画検討専門委員会議事録

日時：2009 年 4 月 3 日（金）11:00－17:00

場所：核物理研究センター本館 2 階会議室

※新旧メンバー合同会議

出席者：

- ・新・継続委員：村上（京大理、委員長）、上坂（東大 CNS、幹事）、青井（理研仁科セ）、延與（京大基研）、緒方（九大理）、川畑（京大理）、酒見（東北大 CYRIC）、慈道（京大基研）、末木（筑波大）、菅沼（京大理）、荻尾（大阪市大理）、岡村（RCNP）、民井（RCNP）、保坂（RCNP）、與曾井（RCNP）、福田（RCNP、幹事）
- ・旧委員：坂口（宮崎大）、若狭（九大）、味村（RCNP）
- ・センター長：岸本（RCNP）
- ・研究企画室：畑中（RCNP）
- ・研計委要請：佐藤（阪大理）

欠席者：

- ・新・継続委員：市川（京大理）、小林（東北大理）
- ・旧委員：小田原（阪大理）、肥山（理研仁科セ）、比連崎（奈良女大）

配布資料：

議事次第

- （資料 1） 委員名簿（2008、2009 年度）
- （資料 2） B-PAC 審査報告
- （資料 3） Q-PAC 審査報告
- （資料 4） RCNP 研究会報告書（4 件）
- （資料 5） 2009 年度研究会申請書（8 件）
- （資料 6） 前回議事録（案）
- （追加資料） 2008 年度一般実験費決算報告

[1] 委員の確認・紹介と委員長・幹事の選出

各委員の紹介の後、互選により、委員長および幹事が以下のように選出された。

委員長：村上哲也氏（京大理）

RCNP 外幹事：上坂友洋氏（東大 CNS）

RCNP 内幹事：福田光宏氏（RCNP）

[2] 報告事項

1. 一般報告（概算要求、CANDLES計画）（センター長：岸本）

岸本センター長より、以下のような報告があった。

- ・文科省への「サブアトミック科学研究拠点」の申請に当たっては、核物理懇談会及び学術会議からレターを頂戴した。理学研究科附属原子核実験施設との統合も視野に入れた申請内容になっている。
- ・2次補正予算では、西実験室での整備が計画されている「パイオン捕獲システム」が認められた。
- ・大型の将来計画に関する学術会議の調査及びシンポジウムに向けて、RCNP 内部での大型研究計画検討会を開催する予定。
- ・神岡で進められている CANDLES 計画では、東大宇宙線研の協力を得て専用の実験スペースを確保したこと、実験室の整備には RCNP の予算を投じていることなどが報告され、RCNP における本プロジェクトの位置づけ、研計委での取り扱いなどについて議論が行われた。

2. M実験室のPRISM-FFAG計画と西実験室のMUSIC計画（佐藤 阪大理）

阪大理の佐藤氏より、M実験室で行われてきた PRISM-FFAG 計画の研究成果と西実験室で予定されている MUSIC 計画の概要について報告が行われ、PRISM-FFAG 計画については実験がほぼ終了し、今年度内に FFAG 電磁石等を西実験室に移設すること、MUSIC 計画については補正予算でパイオン捕獲システムが認められ、今年度中に整備を行うことなどが説明された。

3. サイクロトロン加速器の現状報告（畑中）

RCNP の畑中氏より、サイクロトロン加速器の現状に関して報告があり、H20 年度の運転状況、ビームライン電磁石電源の更新、超伝導 ECR イオン源のビーム開発、陽子ビーム強度増強に向けた 2.45GHz ECR 陽子源開発などについて説明があった。

4. 平成 20 年度一般実験費執行報告（民井）

RCNP の民井氏より、平成 20 年度の一般実験費の執行状況の内訳に関して報告があり、当初予算 40,000 千円に対して 43,050 千円の執行が行われたこと、赤字分は RCNP 内で手当したことなどの説明があった。

5. 理論部報告（保坂）

RCNP の保坂氏より、理論部の活動状況に関して報告があり、最近の研究のトピックス、研究会の開催、外部からの研究者の招へい、計算機の利用状況などについて説明が行われた。

6. B-PAC報告（B-PAC幹事：福田）

B-PAC 幹事福田氏より、2009 年 2 月 23 日に行われた B-PAC の報告があった。10 件の申請課題があったが、2 件は発表者が出席できなかったため今回の審議は見送られたこと、8 件の審議が行われた結果、6 件を採択、1 件を保留、1 件を不採択としたこと、ビームタイム 85.5 日、予算 14,825 千円＋液体 He (4,000 リットル) の要求に対し、ビームタイム 68 日 (採択率 80%)、予算 10,300 千円＋液体 He (4,000 リットル) が採択されたことなどが報告された。

7. Q-PAC報告 (Q-PAC幹事：味村)

Q-PAC 幹事味村氏より、Q-PAC での審議について報告があり、2 件の申請課題を全て採択したこと、1 件の Letter of Intent に対してその意義を認め、助言を行ったことなどが報告された。また、現状の LEPS ビームラインのセットアップで実験可能な課題は審査の対象ではないが、LEPS 非公募実験についての現状説明があった。

8. その他

特になし

[3] 協議事項

1. B-PAC委員、Q-PAC委員の選出

本年度の B-PAC/Q-PAC の P-PAC 内の委員として、下記のメンバーを選出した。

- ・ B-PAC 委員 (P-PAC 内)

青井考 (理研仁科セ)、延與佳子 (京大基研)、緒方一介 (九大理)、川畑貴裕 (京大理)、岡村弘之 (RCNP)

- ・ Q-PAC 委員 (P-PAC 内)

慈道大介 (京大基研)、與曾井優 (RCNP)、保坂淳 (RCNP)

※残る B-PAC 委員 5 人と Q-PAC 委員 3 人の研計委委員長・センター長推薦委員については、研計委後に下記の委員が推薦され、被推薦者の了解が得られた。

- ・ B-PAC 委員 (委員長・センター長推薦)

Gianluca Colo(Milano)、寺西高 (九大理)、中務孝 (理研仁科セ)、中村隆司 (東工大理)、
萩野浩一 (東北大)

- ・ Q-PAC 委員 (委員長・センター長推薦)

石川貴嗣 (東北大 LNS)、肥山詠美子 (理研仁科セ)、味村周平 (RCNP)

2. 研究会

2. 1. 研究会報告 (4 件)

RCNP の味村氏より、2008 年 12 月以降に開催された以下の 4 件の研究会について報告があった。

- ・「第 6 回重いクォークoniumに関する国際ワークショップ (QWG6)」 宮林謙吉 (奈良女大)

- ・「少数粒子系物理の現状と今後の展望」 肥山詠美子 (理研仁科セ)

- ・「停止・低速不安定核ビームを用いた核分光研究」 下田正 (阪大)

- ・「広い意味での核反応研究のこれから」 前田幸重 (宮崎大)

尚、2 つの研究会が同日開催となってしまったため、今後は幹事を中心に事前に日程調整するなどして、できるだけ同日開催を避けるようにすることを申し合わせた。

2. 2. H21 年度研究会申請課題採択 (8 件)

平成 21 年度の研究会募集 (前期) に 8 件 (前期開催 2 件、後期開催 6 件) の申請があった。協議の結果、下記 4 件、2,100 千円を採択した。

- ・「ミューオン科学と加速器研究」

連絡責任者：佐藤朗 (阪大)

開催場所：RCNP

スタイル：国際ワークショップ、国外 2 人、国内 40 人程度

- ・「Physics and Upgrade of the J-PARC Hadron Facility」(後期)

連絡責任者：野海博之 (RCNP)

開催場所：RCNP

スタイル：国際ワークショップ、国外 10 人、国内 40 人程度

- ・「日中韓国際ワークショップ Hadron-Nuclear Physics 2009(HNP90)」(後期)

連絡責任者：保坂淳 (RCNP)

開催場所：RCNP または阪大コンベンションセンター

スタイル：国際ワークショップ、国外 15 名、国内 45 人程度

- ・「エキゾチック原子核構造研究の最前線」(後期)

連絡責任者：青山茂義 (新潟大)

開催場所：新潟大

スタイル：国際ワークショップ、国外 20 人、国内 60 人程度

3. 将来計画について

岸本センター長より、学会会議の大型研究計画に関する調査に対応するため、RCNP 内部を主体にした大型研究計画検討会を 2009 年 4 月 6 日に開催し、RCNP 内の意見集約を図りたい旨の説明があった。概算要求ではサブアトムック科学研究拠点の形成を柱にしているが、他の提案を排除するものではないこと、数十億円以上の予算規模と 5~10 年のレンジを念頭に、新規施設あるいは既存施設のアップグレードなども含め、幅広く検討を進めたいことなどの考えも示された。これに対し、研計委メンバーも検討会に参加することが了承され、研計委としても議論の行方を見守りながら今後も議論を継続していくことを確認した。

4. 前回議事録承認

2008 年 12 月 26 日に開催された研計委の議事録 (案) を承認した。

5. 次回の研計委開催日程に関して

次回の研計委は、2009 年 8 月 11 日 (火) 10 時から開催することになった。